

<参加国・参加アーティスト | 更新>

世界 24 国から、82 組のアーティストが参加！ (10 月 15 日現在)**中国の Ennova Art Museum が主催する初の国際展****Ennova Art Biennale vol.01 : 多元未来 – 人生的な新展望**

<イノヴァ アート ビエンナーレ vol.01>

開催期間: 2024 年 10 月 27 日(日) – 2025 年 5 月 07 日(水) *会期が延長しました！**開催場所: Ennova Art Museum(中国、ランファン市)**

2024 年 10 月 27 日(日)から 2025 年 5 月 07 日(水)まで、中国、北京と天津の間に位置するランファン市(廊坊 市)に開館した Ennova Art Museum(館長 張子康 | Director: Zhang Zikang)では、Ennova Art Biennale vol.01 (イノヴァアートビエンナーレ vol.01)を開催します。本ビエンナーレは、イノヴァ美術館(Ennova Art Museum)が主催する初の国際展で、テーマは、「多元未来(Multiple Future)」。未来の多様な可能性を示唆するとともに、マルチパースの宇宙観にも繋がる、新しい哲学=世界観を包含する事を意図しています。音という抽象的な素材を取り上げ、他のジャンルとの境界線上の創造に注目し、環境と持続可能性をかけた、多様な未来のヴィジョンを示唆します。

本展では日本をはじめ 24 国(アジア 9 カ国、ヨーロッパ 11 カ国、アメリカ 2 カ国、アフリカ 2 カ国)、82 組のアーティストの作品を発表。科学、技術、歴史、哲学を涉猟する多様な視点を持って、アートと創造性の可能性を探るものとなるでしょう。

参加アーティスト(予定) 82 組 85 作品

姓のアルファベット順 2024 年 10 月 15 日現在

| | |
|---|-------------------------------|
| ●賈霽力(Jia Aili) | 出身:中国 |
| ●スザンネ・オルガイアー(Susanne Allgaier) | 出身:ドイツ |
| ●レフィーク・アナドル(Refik Anadol) | 出身:トルコ |
| ●青山周平 | 出身:日本 拠点:中国 |
| ●ザドク・ベン=ダヴィド(Zadok Ben-David) | 出身:イエメン 拠点:ロンドン |
| ●ヨーゼフ・ボイス(Joseph Beuys) | 出身:ドイツ |
| ●ジョン・ケージ(John Cage) | 出身:アメリカ |
| ●曹斐(Cao Fei) | 出身:中国 |
| ●曹舒怡(Cao Shuyi) | 出身:中国 |
| ●ジュリアン・シャリエール(Julian Charrière) | 出身:スイス |
| ●サロメ・シャトリオ(Salomé Chatriot) | 出身:フランス 拠点:フランス |
| ●チョウ・アンド・リン(Chow and Lin) | 出身:マレーシア(チョウ)、シンガポール(リン) |
| ●クレマン・コジトール(Clément Cogitore) | 出身:フランス 拠点:フランス |
| ●エンタングル・アザーズ/フェイリアカン・K・マコーミック&ソフィア・クレスポ(Entangled Others/Feileacan K. McCormick & Sofia Crespo) | 出身:ノルウェー(マコーミック)、アルゼンチン(ソフィア) |
| ●レアンドロ・エルリッヒ(Leandro Erlich) | 出身:アルゼンチン |

- 江原寛人 (evala) 出身: 日本 拠点: 日本
- ビル・フォンタナ (Bill Fontana) 出身: アメリカ
- ローラン・グラツツ (Laurent Grasso) 出身: フランス
- アレ・グゼッティ (Ale Guzzetti) 出身: イタリア 拠点: イタリア
- マリア・ハサビ (Maria Hassabi) 出身: キプロス
- 何晋渭 (He Jinwei) 出身: 中国
- 黄永祿 + 沈遠 (Huang Yong Ping + Shen Yuan) 出身: 中国
- 池田亮司 出身: 日本 拠点: フランス
- イケムラレイコ 出身: 日本 拠点: ドイツ
- アン・イムホフ (Anne Imhof) 出身: ドイツ 拠点: フランクフルト、パリ
- ペッカ&テイヤ・イソラツティア (PEKKA & TEIJA ISORÄTTYÄ) 出身: フィンランド
- ルーク・ジェラム (Luke Jerram) 出身: イギリス
- エイミー・カール (Amy Karle) 出身: アメリカ 拠点: アメリカ
- 河原温 出身: 日本
- モハメド・カゼム (Mohammed Kazem) 出身: アラブ首長国連邦
- クリスティーン・ソン・キム (Christine Sun Kim) 出身: アメリカ 拠点: ベルリン
- キム・スジャ (Kimsooja) 出身: 韓国 拠点: ニューヨーク、パリ、ソウル
- キム・ウジン (Kim Woojin) 出身: 韓国 拠点: 韓国
- 小泉明朗 出身: 日本 拠点: 日本
- ハンス・ペーター・クーン (Hans Peter Kuhn) 出身: ドイツ
- 林嵐 (Jaffa Lam) 出身: 中国
- カロリン・リーブル、ニコラス・シュミット＝フェラー (Carolin Liebl and Nikolas Schmid-Pfähler) 出身: ドイツ 拠点: ドイツ
- 李姝睿 (Li Shurui) 出身: 中国
- 劉建華 (Liu Jianhua) 出身: 中国
- 劉佳玉 (Liu Jiayu) 出身: 中国
- 劉韡 (Liu Wei) 出身: 中国
- 龍盼 (Long Pan) 出身: 中国
- トーマス・マダー (Thomas Mader) 出身: ドイツ
- 繆曉春 (Miao Xiaochun) 出身: 中国
- 宮島達男 出身: 日本
- ジョー・ナミー (Joe Namy) 出身: アメリカ
- ムタズ・ナスル (Moataz Nasr) 出身: エジプト
- ゲエン・チン・ティ (Nguyen Trinh Thi) 出身: ベトナム 拠点: ハノイ
- カールステン・ニコライ (Carsten Nicolai) + クルスン・ブラスコ (Krsn Brasko) 出身: ドイツ
- 邱宇 (Qiu Yu) 出身: 中国
- パトリシア・ピッチニーニ (Patricia Piccinini) 出身: シエラレオネ共和国
- ファブリツィオ・プレッシ (Fabrizio Plessi) 出身: イタリア
- トビアス・レーベルガー (Tobias Rehberger) 出身: ドイツ
- 任莉莉 (Ren Lili) 出身: 中国
- ロバート・ザオ・レンフイ (Robert Zhao Renhui) 出身: シンガポール
- フランソワ・ロシュ (Francois Roche) 出身: フランス

| | |
|--|--------------------|
| ●アントニー・ロジエ (Antoine Roegiers) | 出身:ベルギー 拠点:フランス |
| ●坂本龍一 + 真鍋大度 | 出身:日本 |
| ●トマス・サラセノ (Tomás Saraceno) | 出身:アルゼンチン |
| ●オーラ・ザッツ (Aura Satz) | 出身:スペイン 拠点:ロンドン |
| ●施政 (Shi Zheng) | 出身:中国 |
| ●アラン・ソンフィスト (Alan Sonfist) | 出身:アメリカ 拠点:ニューヨーク |
| ●宋冬+尹秀珍 (Song Dong+Yin Xiuzhen) | 出身:中国 |
| ●ディムート・シュトレベ (Diemut Strebe) | 出身:ドイツ |
| ●隋建国 (Sui Jianguo) | 出身:中国 |
| ●セマーン・ペトラ (Petra Szemán) | 出身:ハンガリー |
| ●パトリック・トレッセ (Patrick Tresset) | 出身:フランス |
| ●アンヌ・ルトロッター (Anne Le Troter) | 出身:フランス 拠点:フランス |
| ●和田永 (Ei Wada ELECTRONICOS FANTASTICOS!) | 出身:日本 |
| ●ベン・カレン・ウィリアムズ (Ben Cullen Williams) | 出身:イギリス |
| ●武子揚+蒙勝宇 (Wu Ziyang+Simon Meng) | 出身:中国 拠点:北京、ニューヨーク |
| ●向京 (Xiang Jing) | 出身:中国 |
| ●謝雨帆 (Xie Yufan) | 出身:中国 |
| ●徐冰 (Xu Bing) | 出身:中国 |
| ●徐震 (Xu Zhen) | 出身:中国 |
| ●山内祥太 | 出身:日本 |
| ●楊泳梁 (Yang Yongliang) | 出身:中国 |
| ●叶凌翰 (Ye Linghan) | 出身:中国 拠点:中国 |
| ●楊沛鏗 (Trevor Yeung) | 出身:中国 |
| ●于伯公 (Yu Bogong) | 出身:中国 |
| ●展望 (Zhan Wang) | 出身:中国 拠点:中国 |
| ●鄭達 (Zheng Da) | 出身:中国 |

坂本龍一 + 真鍋大度 《センシング・ストリームズ-不可視、不可聴》
2024年10月27日(日)から2025年1月14日(火)まで期間限定で展示されます。

開催概要

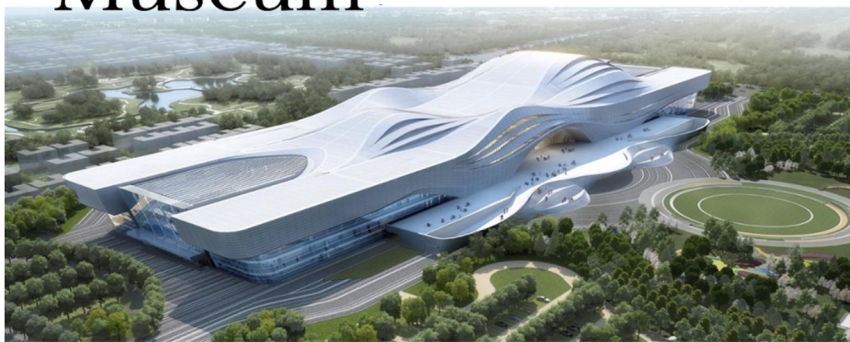
- 名称:Ennova Art Biennale vol.01 | イノヴァアートビエンナーレ vol.01
- テーマ: 多元未来 - 人生的な新展望
- 会期:2024年10月27日 - 2025年5月07日 ***会期が延長しました！**
- 会場:Ennova Art Museum(中国、ランファン市)
- 主催:Ennova Art Museum
- Ennova Art Museum 館長:張子康 (Zhang Zikang)
- ディレクター:南條史生
- キュレーター:Shen Qilan(中国)、Andrea Del Guercio(イタリア)、沓名美和(日本)
- アーティスト選考委員:畠中実(日本)
- 参加アーティスト:24カ国、82組
- オフィシャルサイト:<https://ennovaartmuseum.com.cn/en/exhibitions/97.html>

本展の特徴

- 1) 国際的なアーティストのラインナップであり、日本人アーティスト 11 人を含み、91 人のアーティストが参加。構成は女性アーティスト 23 人、中国外からの参加 60 人、中国人アーティストは 31 人。
- 2) テーマはテクノロジー、環境、人間の生き方、そして未来へのビジョンの示唆となっている。
- 3) 音という最も非物質的な素材にも焦点を当てている。
- 4) 多様性の観点から多くの女性アーティストが参加している。
- 5) インсталレーション作品やイマーシブ(没入型)な作品、メディアアート作品などが多用されている。

Ennova Art Museum について

ENNOVA Art Museum



Ennova Art Museum は、著名な企業家・王玉錠氏によって 2019 年に設立され、北京・天津・河北地域の中心であるランファン市に位置し、総合文化芸術コミュニティ「シルクロード国際芸術交流センター」の中にある非営利の美術館です。日本の建築家、千鳥義典が「流れる雲」をインスピレーションに設計した近未来的な建築が特徴で、建築総面積は 27 万平方メートルを超えます。展示室総面積は 12,000 平方メートルと大規模で、アートギャラリー、劇場、コンサートホールなどの多機能スペースが集まっています。



張子康 館長 (Director: Zhang Zikang)

中央美術学院教授・博士課程専任教授。『美術館』誌編集長、中国美術家協会理事。長年にわたり、美術館の運営・管理、理論研究、展覧会企画、美術創作、美術出版、現代美術批評に携わってきた。私立美術館、国立美術館、大学美術館という 3 つの異なるタイプの美術館の運営・管理において豊富な経験を持つ。

これまで 1000 冊以上の文学・芸術に関する書籍を企画・編集・出版。キュレーターとしては、2019 年ヴェネチア・ビエンナーレ中国館展「元境」、中国初のマルク・シャガール展、「太虚のレルム」、「レアンドロ・エルリッヒ 太虚之境」、「アニッシュ・カプーア」、「悲鴻生命-徐悲鴻」、「新疆ビエンナーレ 2017、2022」、「超越-西海美術館開館記念展」など。国内外で影響力のある大規模な美術展を数多く企画している。

ディレクター



南條史生 | Fumio Nanjo

キュレーター、美術評論家

1972年慶應義塾大学経済学部、1977年文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。国際交流基金等を経て、2002年より森美術館立ち上げに参画、2006年11月から2019年まで館長、2020年より特別顧問。同年より十和田市現代美術館総合アドバイザー、弘前れんが倉庫美術館特別館長補佐、2023年5月アーツ前橋特別館長。1990年代末より1997年ヴェニスビエンナーレ日本館を皮切りに、1998年台北ビエンナーレ、2001年横浜トリエンナーレ、2006年及び2008年シンガポールビエンナーレ、2016年茨城県北芸術祭、2017年ホノルルビエンナーレ、2021年北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs、2021年～2023年Fuji Textile Week等の国際展で総合ディレクターを歴任。著書として「アートを生きる」(角川書店、2012年)等。

キュレーター



Andrea Del Guercio

1954年にローマで生まれ、現在はイタリアのミラノとドイツのフライブルクの間で暮らす。ミラノのブレラ美術学院で現代美術史の教授を務め、ピエランジェロ・セケリー (Monorsignor Pierangelo Sequeri) 氏と共にイタリア北部の神学部門、神聖芸術および人類学部門を創設した。ミラノのブレラ美術学院で現代美術史の主任教授を務める。

1988年にヴェネツィア・ビエンナーレのコミュニケーションズマネージャーとして参加。1990年から1994年までフィレンツェの歴史的先駆者プリモ・コンティ・アルチヴェ・ファンデーションの主席を務めた。また、フォルテデイ・マルミ現代アートギャラリーを指揮し、カララ国際彫刻セミナーを監督した。

アートギャラリー、ファンデーション、コミュニティのアートディレクターおよびアドバイザーとして、現代アートコレクションおよびコレクションの創造に貢献した。同時に、彼の経験を慈善目的の協会や慈善団体のプログラムや活動に使用している。



Shen Qilan

美術評論家、キュレーター、文化学者、アーティスト。ドイツのミュンスター大学で哲学の博士号を取得。華東師範大学客員教授。『アートワールド』誌の編集ディレクター、インサイトメディア出版社のアート部門編集長を歴任。国際的に影響力のある展覧会や国内外の美術機関とのフォーラムを数多く企画。近年では、2018年、国際フォーラム「Detour」、上海ビエンナーレ2018「芸術と哲学の対話」、国際文化対話シリーズ「The Futures」を企画・主宰。2022年よりポルシェ「ヤング・チャイニーズ・アーティスト・オブ・ザ・イヤー」アワードのアーティストティック・アドバイザー兼キュレーター。2022年「Young Art 100 Exhibition Masterplan」のキュレーション・メンター。2023年には、北京国際映画祭でビデオアートの展覧会「The Poesie of illusions」をキュレーションした。

また、重要なメディアや機関を含む多くの国際的なアートメディアやカタログにコラムを寄稿している。2021年、ELLEとコラボレーションし、影響力のあるアートオーディオ番組「Art Heals Life」を制作。2022年、Being Museumとコラボレーションし、オーディオ番組「Write it !」を制作。国際的なアート雑誌『art now』のゲスト編集長を務め、影響力のある文化プロジェクト『Asian Dialogue』を共同で立ち上げた。



沓名美和 | Miwa Kutsuna

現代美術史専門家、キュレーター。

多摩美術大学客員教授、鲁迅美術学院現代美術教授、上海 AAEF 美術館副館長、一般社団法人 OpenArtLab 代表。多摩美術大学卒業、韓国弘益大学大学院修士、中国清華大学博士課程修了。現在、清華大学日本研究所にて東アジア文化芸術の専門家として外交活動にも従事している。2021 年、富士吉田市で「織と気配」展をキュレーション、2022 年、上海の宝龍美術館で展覧会をキュレーション。2023 年、Sutdy:大阪関西国際芸術祭キュレーション。2022 年からは、日本の番組「ザ・アートハウス」に日本の現代美術の専門家としてゲスト出演している。

アーティスト選考委員

畠中実 | Minoru Hatanaka

1968 年生まれ。NTT インターコミュニケーション・センター[ICC]主任学芸員／学芸課長。1996 年、開館準備より ICC に携わる。メディア・アート、サウンド・アート、ビデオ・アートなどを専門領域とし、1997 年以後多くの展覧会やイベントを手掛ける。近年は、「多層世界とリアリティのよりどころ (Viewpoints of Reality in the Multi-layered World)」(2022)、「坂本龍一トリビュート展 音楽／アート／メディア (Tribute to RYUICHI SAKAMOTO: Music / Art / Media)」(2023)、「ICC アニュアル 2024 とてもしずか (ICC Annual 2024: Faraway, so close)」(2024)。美術および音楽批評。

テーマについて

テーマ:「多元未来 - 人生的な新展望」

<セクションタイトル>

第1章 Sound Consciousness (音声の拡張)

第2章 Boundary Imagination (創造力の越境)

第3章 Sustainability and Environment (環境の未来)

第4章 Multiple realities (後人新世)

このビエンナーレは現代のアートとは何か、創造性とは何か、を問いかけて、我々が生きる現実と、その未来の姿がどのようなものか描き出そうとするものである。

現代の人類は多様でグローバルなアジェンダに直面している。地球環境の悪化、食糧危機、水資源危機、人口の爆発や減少問題など、数えあげれば極めて多い。それらの課題は、これまでの考えかたにとらわれず、より広く高い視点から地球という惑星全体を俯瞰し、対処しなければ解決できないのではないか。

解決する方法は、単に人類が昔の生活に戻ることで無く、新しい科学技術に寄るところは大きい。近年めざましい進歩を見せた人工知能、遺伝子工学、ロボティクス、アンチエイジング、再生可能エネルギー技術などの分野は、人類を幸せにすることができる一方、使い方を誤れば、人類に大きな損失を与えることにもなる。新しいテクノロジーは一方で、現代のアートの表現にも応用され、アートと科学技術が非常に近い時代にもなっている。

人類が問題に対処し、克服していくために重要な要素のひとつが創造性であるだろう。創造性とは、新しい発想で、既存の枠組みに縛られず、あらゆる知識を総合し、越境し、新たな視点に立って提案する能力である。それはまさにアーティストの活動そのものではないだろうか。本展はそのような視点に立って、いまアートの現場でどのようなことが起きているのかという好奇心を持って涉猟し、4つの章立てに分類している。

第1章ではアート表現の素材としての「音」に焦点を当てた。音は、形が無く、直ぐに消え去るという意味で「はかなく」、抽象的で時間と共にある。しかし20世紀の半ばから、音を素材にしたアート表現は一般的になった。

現在、音はアート表現の中で重要なエレメントになりつつある。それは人間の身体から発せられる音(すなわち声)や肉体が生み出す音にはじまり、機械音やコンピューターを使って生み出されたデジタル音源など様々である。最近ではコンピューターグラフィックスを駆使した映像プレゼンテーションや電子音のパフォーマンスが、未来に向かう新しい音の芸術の道を開いている。そこで、第1章はこうした音と声を表現の素材にした作品を集中的に展示した。

第2章 我々の学問は現実を分類することから出発し、それぞれの概念を組み立てることによって世界への理解を深め、あるいは世界を洞察してきたと言える。しかし現実の中では分類やジャンルの境界は存在していない。全てはつながっていて、相互に影響し合う関係にある。そのため、クリエイティブな思考はしばしば境界を超え隣接する領域と融合することで、新たなヴィジョンを生み出す。つまり境界線上には新しい創造の可能性が存在している。他のジャンルとの交流、対話、ぶつかり合いが、新しい表現のインスピレーションを生み、新しい世界を開示するきっかけとなる。具体的にはファッション、建築、写真、デザイン、哲学、音楽、味覚、触覚などとの隣接分野とアートが境界を越えて交わることで新しい表現と物語を作り出している。そこで第2章は境界線上の創造を紹介する。

第3章では、創造力の発露がいまのようにグローバルアジェンダに繋がっているのか、その中でも人類の持続可能性と環境問題、またバイオ技術やロボット技術に焦点を当てて、そこに言及する作品を紹介している。今日の地球規模の課題で最大のものは地球環境の問題である。それは単に地球の温暖化だけでなく、巨大なゴミ箱とも言える大都市の増大、水資源や食料の枯渇、大気汚染など多岐に渡る変化を引き起こそうとしている。環境に関わるアート表現には廃材を利用して、環境問題に警告を発する作品、絶滅危惧種に目を向けさせる作品、サーキュラーエコノミーを提案する作品、地球環境の未来を暗示する作品など様々な表現が登場している。また隣接分野の表現も、リサイクルや再生可能な素材を使い、環境と持続可能性について考える事を観客に促すだろう。

最後の章は、アートが描く未来についての多様な現実、世界観を紹介している。人間の未来は人間が開発してきた科学技術によって、今後大きく変わる可能性がある。

科学技術の進化は、これまで見えない物も見えるようにした。ナノテクノロジーはミクロの世界に視野を広げたが、宇宙科学は、量子物理学の発展と共にマクロの世界に視野を広げ、宇宙がどのようなものなのか解明し、マルチパースの可能性についても論じている。そうした変化は人間の生き方と価値観、哲学、宇宙観にもおよぶだろう。現代においてはこうした人間存在に関わる問題をテーマとしている現代美術も少なくない。未来へのヴィジョンに言及した作品を、第4章で紹介する。

創造性の根源と変化、それが与える新しい人間の未来を考えることは、最終的に我々の最も根本的な問い、「我々はどこから来たのか 我々は何者か どこへ行くのか」(ポール・ゴーギャン)に対する、新しい示唆を与えてくれるだろう。この展覧会の根底にはこうした問題意識が存在していることを感じてほしい。

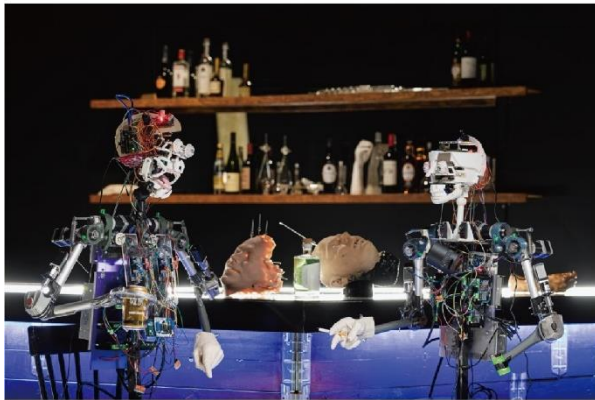
出展作品



Ryoji Ikeda, *test pattern [n*13]*, 2017 © Ryoji Ikeda photo © Martin Argyroglo



Amy Karle, *REGENERATIVE RELIQUARY*, 2016, photo by charlie nordstrom



Isorattya Pekka eTeija (PEKKA & TEUA ISORÄTTYÄ) , *Robohemians*, 2022,
Photographs: Ville Mäkilä, Wäinö Aaltonen museum, Turku Finland 2022



Luke Jerram, *Gaia*, 2018, Gaia at BlueDot, 2018 photo by luke jerram

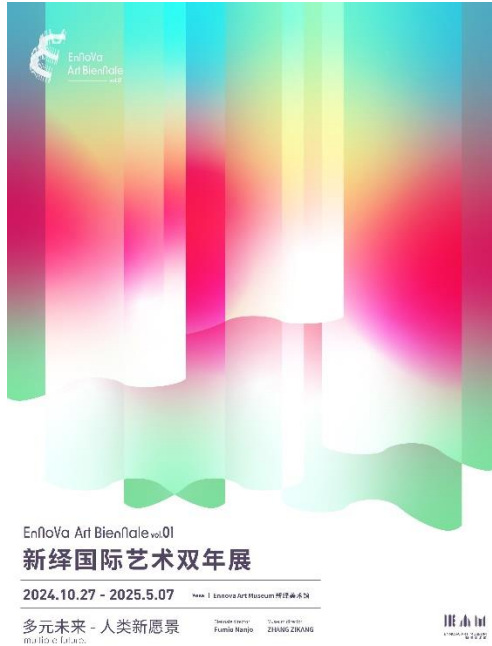


Shota Yamauchi, *The Planet of Faces*, 2022, installation view: MAM Project 030 x MAM Digital:
Yamauchi Shota, Mori Art Museum, Tokyo, 2022-2023 Photo: Kioku Keizo



Hans Peter Kuhn, *undefined landscape*, 2007, © Tadasu Yamamoto

公式チラシ



広報用画像

下記 URL よりダウンロードください。画像掲載には指定のキャプション・クレジットを併記してください。

<https://tinyurl.com/5efm3mmn>

プレスお問合せ先

● エヌ・アンド・エー株式会社

国内広報: 鎌倉薫 Email: kamakura@nanjo.com 電話: 03-6261-6098

国際広報 エグゼクティブ・ディレクター: 高山明日香
Email: asuka.takayama@gmail.com 電話: 080-4607-0677

イノヴァ・アート・ビエンナーレ ツアーのご案内

期間: 2024年10月25日(金)～10月27日(日)

北京近郊のランファン市にて、2024年10月26日から開催するイノヴァビエンナーレの開幕式に参加し、合わせて北京の798アート特区やアーティストのアトリエを訪問する、二泊三日のツアーを開催します。

内容:

- 10月25日(金) ・移動 羽田空港＝北京空港(大興)
 - 10月26日(土) ・ビエンナーレ内覧会＋開幕式
 - 10月27日(日) ・798北京アート状況視察後
・移動 北京空港(首都国際空港)―羽田空港
- 参加費: 160,000～200,000円(予定)
■問合せ先: コウ・シショウ Email: kousisyo@gmail.com 電話: 080-3732-9630